

文部科学省私立大学戦略的基盤研究形成支援事業
「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」
Annual Meeting-2017 報告書

日時：2017年9月1日（金）13：50～17：40
場所：京都薬科大学 愛学ホール
参加者数：153名（教職員 33名、学部生・大学院生 119名、企業関係者 1名）

本私立大学戦略的基盤研究形成支援事業プロジェクト「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」では、9分野1センターから13名、広域大学知的財産アドバイザー1名と学外の3施設から3名、計17名が参画している。本プロジェクト発足後2年経つが、この間進捗会議を年2回行い議論を重ね、新規分子標的治療薬創薬に向けた4つの共同研究プロジェクトを立ち上げた。2017年9月1日に開催されたAnnual Meeting-2017では、5年間のプロジェクトの中間報告会と位置づけ、4つのプロジェクトの進捗報告（口頭発表）、個々の参画研究者の研究発表（ポスター発表）と特別講演を行った。本学学部生、大学院生、教職員および他学教員、製薬企業関係者を併せて153名が参加した。

開会に際して、後藤直正学長から発足当初からの本プロジェクトの使命：①学内共同研究体制の確立、②若手研究者の育成、③研究成果を再確認のご挨拶をいただいた。引き続き、本プロジェクトの研究代表者である芦原から、今までの経過の概要が説明され4つの共同研究グループが発表された。

1. Wnt/ β -catenin 経路阻害薬の創製
2. クマリン系がん転移抑制薬の創製
3. アセトゲニン誘導体がん治療薬の創製
4. A β 産生抑制および凝集阻害薬の創製

後藤 直正 学長



次に口頭発表として、「共同研究の進捗報告」として4演題の発表がなされた。どの口頭発表においてもそれぞれ活発な質疑応答、議論がなされた。

次にPoster Viewingとして、各参画研究者の個々の研究発表が行われた。今年は28演題のエントリーがあり、ポスター会場とした愛学館3階フロアに多くの学生が発表に参加し、新規分子標的治療薬創薬研究の質疑応答を行った。

次に、京都大学 放射線生物研究センター ゲノム動態研究部門 がん

細胞生物学分野 教授 原田 浩先生から特別講演「HIF-1 の生物学：基礎研究から創薬研究への展開」をいただいた。講演では原田先生のライフワークのテーマである HIF-1 を活性化する、新たな分子を同定され、その分子に対する創薬研究開発をお話いただき、活発な質疑応答がなされた。

原田 浩 教授



外部評価員である京都府立医科大学大学院 医学研究科 分子標的癌予防医学 酒井敏行教授、ならびに京都大学大学院 薬学研究科 薬品合成化学分野 高須清誠教授から本 Annual Meeting のご講評をいただいた。「バイオリジストとケミストが協力して事業を行っていることから、着実に候補化合物を見いだしつつあること、基本となる分子解析も順調に進行していることが評価に値する。今後は、それぞれの分子標的の同定を行い、特にがん分子標的薬の場合は、バイオマーカーを同定することにより、臨床開発に移行した時の成功率をあげることに、さらに、より具体的な出口戦略を積極的に製薬会社にも相談し、製薬会社が導入したくなるような実験計画をたてていくことが極めて重要とご評価いただいた。高須先生からも、「昨年度までと異なる取組・成果として、これまで個々の領域で行っていたプロジェクトを、異領域の複数のプロジェクトで協同して行うよう再編して、いくつかのエンドポイントに向かうよう力を結集したことにより、昨年度からの長足の研究の進展が報告され、質疑応答も活発であり、京都薬科大学の研究力の強さと向上が認められた。進展しているプロジェクトについてはどのような患者を対象とするか明確にして、非臨床試験、臨床試験にステップアップできるようにロードマップを緻密に策定することが来年度に向けた課題である。」と、総評をいただいた。

外部評価委員

酒井 敏行 教授（左）、高須 清誠 教授（右）



最後に、合成・相互作用解析グループリーダー 薬品化学分野 赤路健

一教授から、本プロジェクトのさらなる進捗を誓う言葉があり、
盛会のうちに、本 Annual Meeting は終了した。

赤路健一 教授

今後も定期的に進捗会議をもち、知財の獲得、上市を
目指した分子標的治療薬候補化合物の創製を続け、さらに新た
な“知の創造”も目指して本プロジェクトを遂行していく。

文責：芦原英司（研究代表者）



① 転移班



② アセトゲンニン班



③ Wnt/ β -catenin班



④ BACE1班



報告会の風景



Poster Viewingの風景



文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
新規分子標的治療薬創薬に向けた
大学発ベンチャー基盤の確立

2017年度 Annual Meeting

日時: 2017年9月1日 (金) 13:50 ~ 17:30

場所: 京都薬科大学・A31講義室 (講演会会場) + A32講義室前 (ポスター会場)

参加登録方法: 直接会場までお越し下さい (入場無料)。

学部生・大学院生・教職員どなたでもご自由に参加ください。

プログラム

- 13:50 開会挨拶 後藤 直正 (京都薬科大学・学長)
- 13:55 概要説明 研究代表者: 芦原 英司 (シーズ発掘・バリデーションGrリーダー)
- 14:10 □頭発表 「共同研究の進捗報告」
①転移班、②アセトゲニン班
③Wnt/ β -catenin班、④BACE1班
- 15:30 Poster Viewing
- 16:15 特別講演
「HIF-1の生物学: 基礎研究から創薬研究への展開」
原田 浩 (京都大学大学院 生命科学研究所 がん細胞生物学 教授)
- 17:15 総評
酒井 敏行 先生 (京都府立医科大学大学院 医学研究科 分子標的癌予防医学 教授)
高須 清誠 先生 (京都大学大学院 薬学研究科 薬品合成化学分野 教授)
- 17:25 閉会挨拶 赤路 健一 (合成・相互作用解析Grリーダー)

本プロジェクトは、京都薬科大学独自の薬効評価系と創薬化学研究基盤を有機的に融合させ、シーズの発掘・ライセンスアウトを目指しています。本シンポジウムは、採択後2年間の中間成果報告を目的として開催します。

連絡先: 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5
京都薬科大学 病態生理学分野
芦原 英司 (研究代表者)
TEL: 075-595-4706
E-mail: bunshihyoteki@mb.kyoto-phu.ac.jp

薬学の未来をつくる
京都薬科大学